

令和3年12月吉日

日本特別活動学会会員・関係者 各位

日本特別活動学会 会長 安井一郎
30周年記念事業実行委員会 委員長 京免徹雄

日本特別活動学会 創立30周年記念集会 二次案内

師走の候、会員および関係者の皆様方には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は、本学会の研究活動にご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

8月に発送させていただきました一次案内でお知らせさせていただきましたように、「特別活動がつくる学校の未来」をテーマに、下記の通り創立30周年記念集会（令和3年度第2回研究会を兼ねる）を開催いたします。本二次案内では、裏面にて集会の具体的な内容についてご紹介させていただきますので、ぜひご一読ください。実行委員一同、多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

記

1. 日時 令和4年1月23日（日）13:00～17:30
2. 方法 オンライン（Zoom）
参加申込をいただいた方に、メールでURLをお送りします。
3. 主催 日本特別活動学会
4. 後援 全国特別活動研究会、全国小学校学校行事研究会、全日本中学校特別活動研究会、全日本中学校学校行事研究会、全国道徳特別活動研究会、東京都中学校特別活動研究会、埼玉県特別活動研究会、東京都小学校学校行事研究会、東京都中学校学校行事研究会
5. テーマ 「特別活動がつくる学校の未来—開かれた研究と実践に向けて—」
6. 申込方法 以下のオンラインフォームからお申し込みください。

<https://bit.ly/3jp7JII>（QRコードからもアクセスできます）

締切：令和4年1月14日（金）

※特別活動に関心のある方なら、誰でも参加可能です。

非会員の方の参加も大歓迎です。



7. 参加費 無料
8. 集会の構成
13:00～13:15 開会行事
13:15～16:25 第I部 実行委員会による基調報告とディスカッション
16:40～17:30 第II部 みんなで話し合う「特別活動の未来」
9. 問合せ先 日本特別活動学会 30周年記念事業実行委員会 事務局
Email: tokkatsu30@gmail.com

10. 第I部（基調報告）の概要と登壇者

報告1：日本における特別活動研究の成果と課題・今後の展望

特別活動研究の30年を振り返り、これまで十分な研究対象とされてこなかった教師教育に関する研究について検討する。また特別活動研究は実践への貢献が重要とされているが、学校現場の現状からみえる特別活動研究の課題を報告する。その上で、今後の特別活動研究に向けた考察を行う。

- ①「日本における特別活動研究の動向」 長谷川祐介（大分大学）
- ②「特別活動研究における『教師教育』という視点」 田中光晴（文部科学省）
- ③「学校現場の現状からみえる特別活動研究の課題」
脇田哲郎（福岡教育大学） 平野 修（熊本市立帯山西小学校） 東 豊（赤穂市立御崎小学校）
- ④「今後の特別活動研究にむけて」 長谷川祐介（大分大学）

報告2：学校現場における特別活動実践の成果と課題の調査報告

2021年度調査では、学校現場における特別活動実践の成果や抜本的な課題に対して、日本特別活動学会研究開発委員会（現在は研究推進委員会）が実施してきた、1995年度調査、2014年度の「特別活動の改善に関する調査」の一部を引き継ぎ、比較分析を行なうとともに、26年間の変化を振り返り、成果と課題を顕在化させる。また新型コロナウイルス感染症予防対策の影響を大きく受けた現状を振り返り、学校現場における特別活動実践の未来に向けての課題を、調査結果から明らかにしていく。

- ① 「調査概要について」 川本和孝（玉川大学）
- ② 「小学校版アンケートの結果報告及び分析」 秋山麗子（神戸松蔭女子学院大学）
橋谷由紀（日本体育大学）
- ③ 「中学校版アンケートの結果報告及び分析」 林 幸克（明治大学）
- ④ 「高等学校版アンケートの結果報告及び分析」 木内隆生（元東京農業大学）
小原淳一（大阪市立大学）
- ⑤ 「学校現場における特別活動実践の成果と課題」 川本和孝（玉川大学）

報告3：世界に開かれた特別活動の未来

海外諸国においてこれまで展開されてきた教科外活動を対象とする比較研究をレビューするとともに、海外の研究者や実践者から日本の特別活動がどのように評価されてきたか総括することで、日本型教育モデルとしての特別活動の特質を明確化する。また、EDU-Port ニッポンによる Tokkatsu の輸出を含め、国境を越えて展開されている特別活動・教科外活動の取組を整理することで、グローバルな視点から特別活動の成果と課題を導出する。さらに、国際化からみえた特別活動の意義を再確認し、さらなる発展によってどのような子どもたちの未来を作り出すことができるのかを展望する。

- ①「海外の教科外活動の国際比較」 下島泰子（東海大学）
- ②「海外の研究者・実践者からみた日本の特別活動の特質」 京免徹雄（筑波大学）・山田真紀
- ③「特別活動の海外展開」 山田真紀（椋山女学園大学）
- ④「国境を越えて行われる子どもの自治的活動」 清水弘美（八王子市立浅川小学校）
- ⑤「コンピテンシー・エージェンシーの育成という国際的潮流からみた特別活動」
林尚示（東京学芸大学） 天野幸輔（名古屋学院大学）
- ⑥「まとめ：特別活動がつくる子どもの未来と学会の役割」 西野真由美（国立教育政策研究所）